

InstallShield 2023 リリースノート

オリジナル リリース 2023 年 6 月、R2 を含むアップデート リリース (2023 年 12 月)

| | |
|---|----|
| はじめに..... | 2 |
| R2 の新しい機能..... | 2 |
| 2023 R1 の新しい機能..... | 4 |
| 強化機能..... | 6 |
| InstallShield 2023 R2..... | 6 |
| InstallShield 2023 R1..... | 8 |
| 重要な情報..... | 9 |
| 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要..... | 10 |
| InstallShield の評価..... | 10 |
| InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する..... | 11 |
| InstallShield の複数エディションをインストールする..... | 11 |
| InstallShield の複数バージョンをインストールする..... | 11 |
| [リリース] ビューから [NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除..... | 11 |
| プロジェクトのアップグレードに関するアラート..... | 12 |
| InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報..... | 12 |
| ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更..... | 12 |
| 文字列のローカライズに関する考慮..... | 13 |
| バグ修正..... | 13 |
| InstallShield 2023 R2..... | 14 |
| InstallShield 2023 R1..... | 16 |
| システム要件..... | 17 |
| InstallShield を実行するシステムの要件..... | 18 |
| ターゲット システムの要件..... | 19 |
| 既知の問題..... | 19 |
| 法的情報..... | 20 |

はじめに

InstallShield はハイクオリティな Windows Installer、InstallScript ベースのインストール、および MSIX パッケージをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2023 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

R2 の新しい機能

InstallShield 2023 R2 には、以下の変更が含まれています:

- ・ 内部ファイルにデジタル署名を行う機能
- ・ デジタル署名のカスタム署名ソリューションを構成できる機能
- ・ 新しいスケジュール タスクの時間単位のスケジューリング設定
- ・ Standalone Build をビルド中に前提条件をダウンロードするコマンドラインをサポート
- ・ EV デジタル署名用トークン パスワードの保存機能

内部ファイルにデジタル署名を行う機能

InstallShield 2023 R2 Premier Edition では、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーに表示される **[イベント]** タブに、“**ファイルの準備イベント**” および “**ファイルの準備でパッチファイルを実行する**” という新しい設定が追加されています。これらの設定を使って、パッチ ファイル (.bat または .cmd) または実行可能ファイル (.exe) を使ったカスタム スクリプト/ コマンドを指定し、署名されていない InstallShield 内部ファイルにデジタル署名を行うことができます。

InstallShield に組み込まれている署名ステップを使用する場合、内部ファイルを含むすべてのバイナリの署名はデフォルトの署名動作で管理されているため、これらの設定は不要です。

これらの設定は、InstallShield 標準の署名ソリューションの代わりにカスタム署名ソリューションをご利用のお客様向けに提供されています。

詳細については、InstallShield 製品ドキュメントの「**リリースの [イベント] タブ**」を参照してください。

デジタル署名のカスタム署名ソリューションを構成できる機能

InstallShield 2023 R2 では、ビルドで生成されたファイルにデジタル署名を行うカスタム署名ソリューションを選択および構成できる新しい “署名の種類” 設定が導入されました。

これらの設定は、InstallShield の標準署名ソリューションの代わりにカスタム署名ソリューションをご利用希望のお客様向けに提供されています。**[カスタム]** 署名タイプを選択すると、カスタム署名ユーザーリテリティブ パスおよび引数を構成できる追加フィールドが有効化されます。カスタム署名ソリューションを構成するには、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーに表示されているリリースの **[署名]** タブで次の新しい設定を使用してください::

- ・ **署名の種類** – この設定を使って、ビルドが生成したファイルにデジタル署名を行う方法を指定します。この設定では、次のオプションを使用できます:

- ・ **標準** — InstallShield デフォルト署名ツールを使って、ビルドが生成したファイルに署名を行います。
- ・ **カスタム** — 独自のカスタマイズ署名ツールを使って、ビルドが生成したファイルに署名を行います。このオプションを設定すると、“パス” および “引数” 設定が有効になります。
- ・ **パス** — ビルドが生成したファイルにデジタル署名を行うために使用する署名ツールの場所を指定します。署名ツールの場所を指定するには、この設定で省略記号ボタン (...) をクリックします。
- ・ **引数** — 署名ツール構成のコマンドライン引数を指定します。たとえば次のコマンドライン引数を使って、Microsoft ビルトイン署名ツールがバイナリに署名を行うカスタム オプションとして構成します。

```
sign /fd SHA256 /f "<ProgramFilesFolder>%testCA.pfx" /t http://timestamp.digicert.com /p MyPassword [filename]
```



メモ カスタム署名ツールへのパスは、<ProgramFilesFolder>%Windows Kits%10%bin%<WinSDKVer>%x86%signtool.exe を使用します。

[filename] 変数は、署名を行う完全なファイル パスのプレースホルダーです。ビルド時に、署名を行うバイナリ ファイルの完全修飾パスに解決します。デフォルトで、引数の終わりにファイル パスが追加され、カスタム署名ツールに渡されます。ハードコード化されたパスを使用する代わりに、プロジェクトで定義されている任意のパス変数および環境変数を使用することができます。



メモ デフォルトで、“署名の種類” 設定は [標準] になっています。

新しいスケジュール タスクの時間単位のスケジューリング設定

InstallShield 2023 R2 では、1 時間単位のスケジュール タスクの繰り返し頻度と、各スケジュール タスクの期間を指定できるようになりました。以下の設定は、[システム構成] ビューの [スケジュールされたタスク] エクスプローラで、新しいタスクの “スケジュール” 設定に追加されています：

- ・ **繰り返し間隔 (分)** — この設定を使って、指定した時間の間に連続するタスクを実行する頻度を決定づける時間間隔を分数で指定します。この間隔は、前のスケジュール タスクの開始時点から計算されます。
たとえば、タスクが 8:00 AM から 5:00 PM まで 1 時間間隔で実行する場合、このフィールドには 60 と入力します。
- ・ **時間間隔 (分)** — この設定を使って、アクティブなトリガでスケジュール タスクを繰り返す期間を決定づける時間間隔を分数で指定します。ここに指定する間隔は、“繰り返し間隔 (分)” 設定で指定された間隔値と等しいか、それよりも長く無くてなりません。
たとえば、8:00 AM から 5:00 PM までスケジュール タスクを実行するには、540 と入力します。



メモ この設定は、“繰り返し間隔 (分)” 設定に間隔値が指定されているときに、“時間間隔 (分)” 設定が有効化されます。

Standalone Build をビルド中に前提条件をダウンロードするコマンドラインをサポート



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2023 R2 では、`-prqdownload` という新しいコマンドラインパラメーターが導入されました。このパラメーターは、`ISCmdBld.exe` を使用してコマンドラインからプロジェクトをビルドするときに、不足している InstallShield の前提条件バイナリ ファイルを該当するプロジェクトのディレクトリに自動的にダウンロードするように Standalone Build に指示します。



メモ `Iscmdbld.exe` を使ったスイート/アドバンスド UI プロジェクトがこのパラメーター無しでビルドされると、ISM パッケージに必要な InstallShield 前提条件のバイナリ ファイルが自動的にプロジェクト ファイルにダウンロードされます。そのため、このパラメーターはスイート/アドバンスド UI プロジェクトには適用しません。

EV デジタル署名用トークン パスワードの保存機能

InstallShield 2023 R2 では、EV トークンのパスワードを暗号化してプロジェクト ファイルに保存するオプションが提供されています。InstallShield の以前のバージョンでは、**[証明書ストアを使用する]** オプションを使った EV 証明書がサポートされていました。ただしこのオプションを使用すると、ファイルが EV 証明書で署名されるたびにトークン パスワードが要求されます。

また、EV ベンダーに付属する **[シングルログオンを有効にする]** というオプションもあります。このオプションでは、1 回のトークン パスワード要求でセッションごとのユーザー介入を制限できます。InstallShield の **[署名]** タブでトークン パスワードを構成すると、パスワードの有効期限が切れるまで機能し続けます。トークンのパスワードは、InstallShield IDE または InstallShield オートメーション レイヤーを使って変更することができます。

詳細については、InstallShield 製品ドキュメントの次のセクションを参照してください：

- [リリースの \[署名\] タブ](#)
- [MSIX リリースの \[全般\] タブ](#)

2023 R1 の新しい機能

InstallShield 2023 R1 には、以下の新機能が追加されています：

- [スイート/アドバンスド UI プロジェクトにおける Windows パッケージ マネージャー パッケージのサポート](#)
- [スイート/アドバンスド UI プロジェクトに新しく導入された、アプリのアップデート確認機能](#)
- [InstallShield 2022 R1 における Visual Studio 2022 の統合](#)

スイート/アドバンスト UI プロジェクトにおける Windows パッケージ マネージャー パッケージのサポート

InstallShield 2023 R1 では、スイート/アドバンスト UI プロジェクトで新しく Windows パッケージ マネージャー (WPM) パッケージがサポートされています。Windows パッケージ マネージャー は、Windows 10 と Windows 11 上にアプリケーションをインストールするためのコマンドライン ツールおよび一連のサービスで構成される総合的なパッケージ マネージャー ソリューションです。

[編成] ビューの **[パッケージ]** エクスプローラーを使って、Windows パッケージ マネージャー (WPM) パッケージをスイート/アドバンスト UI プロジェクトに追加できます。

Windows パッケージ マネージャー (WPM) パッケージをインストールするには、ターゲット システム上に Windows パッケージ マネージャー (WPM) ソリューションがインストールされている必要があります。Windows パッケージ マネージャー(WPM) ソリューションは、アプリ インストーラー MSIX バンドルでインストールされます。Windows パッケージ マネージャー (WPM) パッケージが スイート/アドバンスト UI プロジェクトに追加されると、InstallShield は、アプリ インストーラー MSIX バンドル パッケージを依存ファイルとして追加します。ターゲットマシン上でアプリ インストーラーが使用できない場合、InstallShield はアプリ インストーラー MSIX バンドル パッケージをインストールします。Windows パッケージ マネージャー は、Windows 10 1809 からアプリ インストーラーを通してサポートされています。

スイート/アドバンスト UI プロジェクトに新しく導入された、アプリのアップデート確認機能

InstallShield 2023 R1 では、スイート/アドバンスト UI セットアップ ランチャーのアップデートの設定を構成する **[アプリのアップデートを確認する]** という名前の新しい機能が、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーにある **[アップデート]** タブに追加されました。

ビルドを行う前にこの新しい機能を使って、アプリケーションがターゲットマシン上に配置される時に使用可能なアプリケーションのアップデートを定期的にチェックして表示する追加設定を構成できます。最初のアップデートの確認ともない、後に続くアップデートがインストール開発環境 (IDE) で定義された間隔で表示されます。

たとえば、ビルド前に **[アプリのアップデートを確認する]** 機能の追加設定が構成されている場合、任意のアプリケーションで使用可能なアップデートがあるとき、バージョン アップデート情報と共に次の 3 つのボタンを含むダイアログ ボックスが表示されます。

- **後で通知** – 最近のアップデート情報を設定された間隔でもう一度ダイアログボックスに表示するには、このボタンをクリックします。
- **アップデートをスキップ** – 特定のアップデート情報を再び表示するダイアログ ボックスを抑制するには、このボタンをクリックします。
- **ダウンロード** – アップデートをダウンロードするには、このボタンをクリックします。

InstallShield 2022 R1 における Visual Studio 2022 の統合

InstallShield 2023 R1 から、Visual Studio 2022 内で InstallScript プロジェクトの作成、編集、およびビルドがサポートされています。

強化機能

InstallShield 2023 には、以下の強化機能が含まれています:

- [InstallShield 2023 R2](#)
- [InstallShield 2023 R1](#)

InstallShield 2023 R2

InstallShield 2023 R2 には、次の強化機能が含まれています:

- [64 ビット署名フレームワークを有効化する新しい設定](#)
- [Setup.exe バージョンをオーバーライドするオートメーション インターフェイスのサポート](#)
- [Setup.exe の新しいパラメーターを使って一時抽出ディレクトリをカスタマイズする](#)
- [ビルド イベントを使った .mst ファイルのデジタル署名をサポート](#)
- [不足しているコンポーネントがビルド エラーを表示](#)
- [SQL Server 2022 の新しい前提条件](#)

64 ビット署名フレームワークを有効化する新しい設定

InstallShield 2023 R2 では、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーで、**[署名]** タブに **"64 ビット署名を使用"** という名前の新しい設定が追加されています。この設定を使って、パッケージにデジタル署名を行う 64 ビット署名フレームワークの使用を有効化することができます。選択可能なオプションは以下のとおりです:

- **はい** – 64 ビット署名フレームワークを有効にして、デジタル署名を行います。
- **いいえ** – 32 ビット署名フレームワークを有効にして、デジタル署名を行います。

デフォルトで、この設定は **[いいえ]** になっています。



メモ Amazon Cloud HSM など、クラウドベースの署名ソリューションを使用する場合は、この設定が必要です。



メモ この変更は ISDEV-43436 として記録されています。

Setup.exe バージョンをオーバーライドするオートメーション インターフェイスのサポート

InstallShield 2023 R2 では、Setup.exe のカスタム ファイル バージョンで既定のファイル バージョンをオーバーライドできる LauncherFileVersion というオートメーション インターフェイス サポートが追加されました。

ISWiReleases オブジェクトのこの読み書き文字列プロパティは、基本の MSI、InstallScript、および InstallScript MSI プロジェクトで使用できます。



メモ この変更は ISDEV-43367 として記録されています。

Setup.exe の新しいパラメーターを使って一時抽出ディレクトリをカスタマイズする

InstallShield 2023 R2 では、Setup.exe 起動ツールに /tempextractpath という新しいコマンドライン パラメーターが提供されています。

デフォルトで、InstallShield セットアップは一時ファイルを %TEMP% ディレクトリに抽出し、ファイルを読み込んでインストールを完了した後、これらのファイルを削除します。これらの一時ファイルには、サポート ファイル、ビルボード、およびその他のカスタム アクションに必要な InstallShield エンジン ファイルが含まれています。%TEMP% 抽出ディレクトリからの実行可能ファイルの実行をブロックするウイルス対策アプリケーションなど、いくつかの環境制限シナリオがあります。

そのような状況では、このパラメーターを使った抽出ディレクトリのカスタマイズが推奨されます。InstallShield では、カスタム場所からのこれらのファイルおよびバイナリの抽出と読み込みにおけるセキュリティが考慮されています。



メモ この変更は ISDEV-42332 として記録されています。

ビルド イベントを使った .mst ファイルのデジタル署名をサポート

以前は、ビルド中に生成されるビルド イベントから.mst ファイルに署名を行うオプションがありませんでした。そのため、InstallShield ビルトイン署名オプションを使用する代わりに、ビルド イベントから代替の署名スクリプトを使用することができませんでした。

InstallShield 2023 R2 では、[メディア] ビューの [リリース] エクスプローラーに表示されるリリースの [イベント] タブで、“圧縮前のイベント” 設定を使用し、署名を行うスクリプトを指定することで、.mst ファイルにデジタル署名を行うことができます。



メモ この変更は ISDEV-43495 として記録されています。

不足しているコンポーネントがビルド エラーを表示

以前のリリースでは、InstallShield の最新版にアップグレードする時、特定のディレクトリでいくつかのファイルが不足していた場合、生成されるビルド エラーには不足しているファイルが指定されましたが、コンポーネントは指定されませんでした。

InstallShield 2023 R2 ではトラブルシューティング機能が改良され、ビルド エラーに不足しているファイルおよびコンポーネントが一覧表示されるようになりました。



メモ この変更は ISDEV-43296 として記録されています。

SQL Server 2022 の新しい前提条件



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2023 R2 では、Microsoft SQL Server 2022 Express (x64) for SQL Server 2022 という前提条件が追加されました。この前提条件は、[アプリケーション データ] ビューの [再配布可能ファイル] エクスプローラーに表示されます。



メモ この変更は ISDEV-43523 として記録されています。

InstallShield 2023 R1

InstallShield 2023 R1 には、次の強化機能が含まれています：

- Windows パッケージ マネージャー前提条件のインストール条件を定義する機能
- デジタル署名を検証する Setup.exe の強化機能
- 新しいセットアップ前提条件
- セキュリティ機能を含むセットアップ ランチャーをビルドできる機能
- 2 GB以上のインストーラーを処理できる機能

Windows パッケージ マネージャー前提条件のインストール条件を定義する機能

InstallShield 2023 R1では、**InstallShield 前提条件エディター**の [条件] タブで、Windows パッケージ マネージャー (WPM) 前提条件パッケージがターゲット マシン上に既にインストールされているかどうかを判別するインストール条件を定義することができます。

たとえば、実行時にターゲット マシン上で [条件] タブに一覧表示されている条件の 1 つが満たされている場合、ターゲット マシン上に Windows パッケージ マネージャー (WPM) 前提条件パッケージが既にインストール済みであると判断します。



メモ この変更は ISDEV-42589 として記録されています。

デジタル署名を検証する Setup.exe の強化機能

以前のリリースで、MSI のデジタル署名が setup.exe セットアップ ランチャーと一致することを強制するオプションが Settings.xml で導入されました。

```
<DigitalSignature ValidateSetupAndMSISignatures="no"/>
```


InstallShield 2023 R1 ではこの変更が拡張されており、MSI のデジタル署名が改ざんされていないことを確認します。



メモ この変更は ISDEV-42572 として記録されています。

新しいセットアップ前提条件

InstallShield 2023 R1 では、[アプリケーション データ] ビューの [再配布可能ファイル] エクスプローラーに、次のセットアップ前提条件が追加されました:

- Microsoft OLEDB Driver for SQL Server 19.3.0 (x64)
- Microsoft OLEDB Driver for SQL Server 19.3.0 (x86)
- Microsoft .NET 6.0 SDK 6.0.408 (x64)
- Microsoft .NET 6.0 SDK 6.0.408 (x86)
- Microsoft .NET 7.0 SDK 7.0.302 (x64)
- Microsoft .NET 7.0 SDK 7.0.302 (x86)



メモ この問題は ISDEV-43005 として記録されています。

セキュリティ機能を含むセットアップ ランチャーをビルドできる機能

すべての InstallShield 2023 R1 セットアップ ランチャーは、今回より control-flow-guard、enforced-code-integrity、および aslr などの最新セキュリティ機能と共にビルドされます。



メモ この問題は ISDEV-42510 として記録されています。

2 GB以上のインストーラーを処理できる機能

InstallShield 2023 R1 では、すべての setup.exe セットアップ ランチャーで **LargeAddressAware** フラグが有効化されるため、実行時に setup.exe セットアップ ランチャーが 2 ギガバイトを超えるアドレスを処理することができます。



メモ この問題は ISDEV-43244 として記録されています。

重要な情報

InstallShield 2023 リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要
- InstallShield の評価
- InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

- ・ [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- ・ [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- ・ [\[リリース\] ビューから \[.NET/J#\] タブおよび \[MSI エンジンを含める\] オプションを削除](#)

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2023 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2023 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2023 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェック アウトしません。



メモ FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 で、InstallShield 2022 および InstallShield 2023 のライセンスを管理することができます。InstallShield 2022 から InstallShield 2023 にアップグレードすると、既存する FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 を使用できるようになります。InstallShield 2021 以前のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.19.0 にアップグレードする必要があります。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Reverera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェック アウトされたときに解除されます。



メモ InstallShield 2021 より、Professional Edition の名前が「InstallShield」に変更されましたが、Premier Edition は引き続き「InstallShield Premier」と呼ばれます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用] に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ InstallShield 2021 より、Collaboration Edition (DIM エディター) が使用できなくなりました。

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2023 Premier または InstallShield は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2023 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2023 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

[リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプションには .NET 1.1/2.0, Windows Installer 3.1 および J# 再配布可能ファイルのサポートが提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートが停止されました。これに伴い、InstallShield 2023 のすべてのエディションで、[インストー

ル デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプション (並びに関連する [.NET 1.1/2.0 コア言語] と [.NET 1.1/2.0 言語パック] ダイアログ ボックス) が削除されました。InstallShield 2023 ビルド タスクは、古いバージョンのプロジェクト ファイルでこれらのオプションが検出されても無視します。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2023 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2023 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2023 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2023 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2023 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2023 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

すべてのプロジェクト タイプで、InstallShield で生成されたインストールを実行するためにターゲット システムに必要な Windows の最小バージョン要件は Windows 7 および Windows Server 2008 R2 です。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

| エラー/警告番号 | Message | トラブルシューティング情報 |
|----------|---|--|
| -7355 | 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。 | この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。 |
| -7354 | 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。 | このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。 |

バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:


- [InstallShield 2023 R2](#)
- [InstallShield 2023 R1](#)

InstallShield 2023 R2

次の問題が、InstallShield 2023 R2 で修正されました:

| 問題番号 | 問題の概要 |
|-------------|--|
| ISDEV-43405 | ”[プログラムの追加と削除] エントリを表示” 設定で [いいえ] を選択してスイートプロジェクトをビルドすると、ビルド エラーが発生して、次のエラー メッセージが表示されました: ISDEV: エラー -7385: インストールで [アップデートの確認] が構成されているため、[一般情報] の ”プログラムの追加と削除” 設定は [はい] に設定します。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43364 | Docker コンテナを含む InstallShield Standalone ビルドが失敗して、エラーメッセージが表示されました: docker: Error response from daemon: container <Container ID> encountered an error during hcs::System::Start: failure in a Windows system call: The virtual machine or container exited unexpectedly.(0xc0370106). この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43342 | ARPPRODUCTICON.exeファイルがデジタル署名されていなかったため、Windows 11 のスマート アプリ コントロールがファイル/実行可能ファイルをブロックしました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42983 | スイートプロジェクトで”再起動の要求” 設定を [常にマシンを再起動する] に設定すると、前提条件のインストール後に「再起動が必要です。」と表示され、今すぐ再起動または後で再起動のオプションが提供されました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43354 | [COM 情報の抽出] チェックボックスを含む QuickPatch プロジェクトをビルドすると、InstallShield IDE がクラッシュしました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43284 | InstallShield IDE を使うと、マージモジュールを含むプロジェクトが正しくビルドされましたが、InstallShield Standalone Build を使うとビルドが失敗しました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43196 | [スクリプトのコンパイル] オプションが選択されている場合、ISSetup.dll ファイルがデジタル署名されなかったため、インストーラーの起動が失敗してエラーメッセージが表示されました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43500 | setup.exe が別の名前が含まれているインストールのビルドで、悪意のある DLL が Disk1 フォルダーにコピーされたため、DLL ハイジャック セキュリティ脆弱性の可能性が検出されました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43476 | InstallShield Symlink 脆弱性問題は、Disk オペレーティング システムの破損の原因になります。この問題は解決されました。 |

| 問題番号 | 問題の概要 |
|-------------|---|
| ISDEV-43403 | [カスタム アクション] オプションに保存されている特定の VBScript カスタム アクションをエクスポート中に InstallShield がクラッシュしました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43437 | スイート プロジェクトのサイレント インストールで、エラー番号だけが表示され、終了条件メッセージが表示されませんでした。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43575 | InstallShield で使用されている Zlib ライブラリ (v1.2.13) で脆弱性がレポートされました。Zlib は最新版 (v1.3.0.1) にアップグレードされました。 |
| ISDEV-43490 | SAB2023 インストールが、2023 フォルダーに InstallShield.Task.x64.dll ファイルを含んでいませんでした。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43445 | Windows Server 2019 のアップデートを行うと、ビルドが失敗して次のエラー メッセージが表示されました: ISDEV : エラー -6003: 'C:\Program Files (x86)\InstallShield\2022\SetupPrerequisites\Microsoft .NET Framework 4.8 Full.prq' を setup.exe ヘストリーム中にエラーが発生しました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43442 | ”[プログラムの追加と削除] エントリの表示” 設定に [いいえ] を選択してスイート プロジェクトをビルドすると、Setup.exe がクラッシュしました。この問題は解決されました。解決されました。 |
| ISDEV-43438 | ”[プログラムの追加と削除] エントリの表示” 設定に [いいえ] を選択してスイート プロジェクトをビルドすると、セットアップが初期化ダイアログを表示したまま応答せず、ビルド エラーが表示されました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43396 | Windows 10 および 11 の日本語版で setup.exe をインストール中に、InstallWelcome ダイアログの RebootDialog ウィンドウに黒い箱型のテキストが表示されました。この問題の解決策は、ドキュメントに記載されています。解決策の詳細については、InstallScript リファレンス ガイドの「ダイアログ関数」を参照してください。 |
| ISDEV-43265 | インストーラーを Visual Studio でビルドしたときに、ローカルにコピーされたすべてのアイテムが File MSI テーブルに含まれましたが、インストーラーが MSBuild を使ってビルドされたとき、ローカルにコピーされたアイテム 1 つが File テーブルに含まれませんでした。この問題は解決されました。 |
| |  <p>メモ: ローカルにコピーされた MSBuild ターゲットは、Visual Studio 2019 以降に同梱されている MSBuild のみ使用できます。そのため、この修正は Visual Studio 2019 以降に同梱されている MSBuild にのみ適用します。</p> |

| 問題番号 | 問題の概要 |
|-------------|--|
| ISDEV-43059 | Visual Studio でインストーラーがビルドされた場合、NLLog.dll が TARGETDIR にインストールされましたが、インストールが MSBuild を使ってビルドされた場合、NLLog.dll が TARGETDIR にインストールされませんでした。この問題は解決されました。 |
| |  <p>メモ ローカルにコピーされた MSBuild ターゲットは、Visual Studio 2019 以降に同梱されている MSBuild でのみ使用できます。そのため、この修正は Visual Studio 2019 以降に同梱されている MSBuild にのみ適用します。</p> |
| ISDEV-43431 | スイート/アドバンスド UI インストーラーのインストールで、ターゲット マシン上で再起動がスキップした後、黄色い進行状況バーが表示されました。この問題は解決されました |

InstallShield 2023 R1

次の問題が、InstallShield 2023 R1 で修正されました:

| 問題番号 | 問題の概要 |
|-------------|---|
| ISDEV-42577 | Microsoft .NET 5.0 Desktop Runtime 5.0.3 前提条件のインストールによって Microsoft .NET 5.0 Desktop Runtime 5.0.3 のインストールがトリガされた為に、ターゲット マシン上に再配布可能ファイルの高位バージョンがインストール済みとなり、エラー メッセージが表示される原因となりました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42327 | InstallScript プロジェクトで、SdExcpetions ダイアログ ボックスのテキストが切り詰めて表示されました。この問題は解決されました |
| ISDEV-42950 | 基本の MSI プロジェクトで、[Setup.exe] タブの "MSI エンジンを含む" 設定が有効な時に、ビルド警告-7065 が表示されました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42614 | InstallScript プロジェクトにブラジル語 (ポルトガル) の間違った翻訳が含まれていました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42635 | [定義済み最低データベース サーバー バージョン] ドロップダウンに SQL Server 2019 Express および SQL Server 2022 Express 両方のオプションが表示されませんでした。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42703 | 変更または置換された SUPPORTDIR の実行可能ファイルを強制的に修正すると、セキュリティ脆弱性を再生成する原因となりました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42841 | InstallShield 2021 のスクリプトで、すべてのキーワードに対するコンテキスト ヘルプが使用できませんでした。この問題は解決されました。 |

| 問題番号 | 問題の概要 |
|-------------|---|
| ISDEV-42904 | _isres_0x0411.dll ファイルがデジタル署名されていなかったため、Windows 11 のスマート アプリコントロールが InstallShield DLL をブロックする問題がありました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-42977 | Windows 10 上でのみ実行する前提条件が設定されているにもかかわらず、InstallShield 前提条件は Windows Server 2016 を検出しました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43026 | InstallScript サポート/エンジン ファイルを Temp ディレクトリに抽出すると、DLL ハイジャック問題の原因となる場合がありました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43108 | FeatureSetTarget で設定されたドライブを含んだパスが存在しなかった場合、InstallScript インストーラーの実行が失敗しました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43126 | [Web からダウンロードする] オプションが選択されている場合、スイート プロジェクトで ISParcelStatus のパッケージ名が表示されませんでした。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43166 | Visual Studio 2022 を初回に管理者モードで起動しなかった場合、開始しませんでした。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43203 | Temp フォルダの _isres_0x0411.dll ファイルがデジタル署名されていなかったため、Windows 11 のスマート アプリコントロールがファイル/実行可能ファイルをブロックしました。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43217 | Docker SAB の手動インストールが失敗して次のメッセージが表示されました: ISDEV: 致命的なエラー -7159: 製品ライセンスの期限が切れているか、まだ初期化されていません。この問題は解決されました。 |
| ISDEV-43337 | プロジェクトを開くと InstallShield がクラッシュして、.dmp ファイルが作成され、例外 ACCESS_VIOLATION (0XC0000005) メッセージが表示されました。この問題は解決されました。 |

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

- [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- [ターゲット システムの要件](#)

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

| 項目 | 説明 |
|---------------|---|
| プロセッサ | Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨) |
| RAM | 1 ギガバイトの RAM (2 ギガバイト 推奨) |
| ハードディスク | 1 ギガバイト 空き領域 |
| ディスプレイ | 1024 x 768 (XGA) 以上の解像度 |
| オペレーティング システム | <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2Windows Server 2012Windows 8.1Windows Server 2012 R2Windows 10Windows Server 2016Windows Server 2019Windows 11Windows Server 2022 |
| 権限 | システムの管理者権限 |
| マウス | Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス |

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション) | <p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または InstallShield Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2012 • Visual Studio 2013 • Visual Studio 2015 • Visual Studio 2017 • Visual Studio 2019 • Visual Studio 2022 <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または InstallShield Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Professional • Premium • Ultimate • Enterprise |

ターゲット システムの要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2023 の既知の問題はありません。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2023 Flexera Software. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な制作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.reverera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商用コンピュータソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。